

# U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

## 米国 川上である輸入物価の上昇圧力低下 (05年6月輸入物価)

05年7月13日 (水)

～今後も輸入インフレ圧力は鈍化傾向を辿る公算～

(No. UI-062)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

輸出入物価 (U. S. Import and Export Price Indexes)

	輸出物価	輸入物価					自動車	消費財	実効ドルレート
		除石油	工業原料	石油	資本財	消費財			
04/06	▲0.7	▲0.2	+0.1	▲0.3	▲1.1	▲0.4	+0.2	+0.0	▲1.0
04/07	+0.5	+0.4	+0.0	+1.1	+2.3	+0.0	+0.1	+0.0	▲0.7
04/08	▲0.5	+1.5	+0.3	+5.0	+8.8	▲0.1	+0.2	▲0.1	+0.2
04/09	+0.4	+0.5	+0.1	+1.5	+3.3	▲0.1	+0.2	+0.0	▲0.4
04/10	+0.6	+1.6	▲0.1	+5.0	+11.1	▲0.2	+0.3	+0.1	▲1.4
04/11	+0.3	▲0.3	+0.9	▲1.3	▲6.0	+0.1	+0.1	+0.2	▲2.6
04/12	+0.1	▲1.4	+0.4	▲5.1	▲11.4	+0.3	+0.1	+0.3	▲1.1
05/01	+0.8	+0.6	+0.3	+1.2	+2.2	+0.3	+0.0	+0.6	+0.6
05/02	+0.1	+0.9	+0.1	+2.2	+5.1	▲0.1	+0.0	+0.5	+0.2
05/03	+0.7	+2.2	+0.3	+7.0	+13.4	▲0.1	+0.0	▲0.2	▲0.6
05/04	+0.5	+0.9	+0.4	+2.8	+3.6	▲0.2	+0.2	+0.0	+0.9
05/05	▲0.2	▲1.0	▲0.2	▲3.1	▲4.8	+0.1	+0.0	+0.1	+0.5
05/06	+0.0	+1.0	▲0.4	+3.3	+7.6	+0.0	+0.0	▲0.1	+1.1

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 未季調、前月比、%。実効レートはFRB算出ベース。

### 輸入物価 (除く石油) は前月比▲0.4%

05年6月の輸入物価 (最終財) は、石油・同製品が前月比+7.6%上昇したため同+1.0% (前年同月比+7.0%) と上昇に転じたが、市場予想通りの結果となった。一方、輸出物価は同+0.0%と横這いとなった。

変動の大きい石油を除いた輸入物価 (最終財) は、前月比▲0.4% (前年同月比+2.1%) と2ヵ月連続で下落した。自動車が同+0.0%と横這いが続いた一方、消費財 (除く自動車) が同▲0.1%、石油を除く工業原料が同▲1.1%と下落したことに加え、資本財が同0.0%と鈍化した。消費財では、衣服が上昇したものの、家具等の下落によって全体でも下落した。資本財は、特殊機械の下落、金属加工機械の伸び低下によって同0.0%と鈍化した。さらに、工業原料 (除く石油) は、天然ガス、鉄鋼製品等の下落によって2ヵ月連続のマイナスとなった。加えて、米国内での競争激化を背景に自動車の輸入価格は横這いにとどまった。

原油価格が1バレル=50ドル台後半で推移しているものの、ドル実効レートが金利格差拡大観測から上昇しており、輸入物価押し上げ圧力は小幅低下している。トレンドを示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも石油が+64.7%とプラス幅が縮小したため、輸入物価は+9.6%とプラス幅が縮小した。また、変動の大きい石油を除いた輸入物価 (最終財) は+1.4%に伸びが鈍化している。

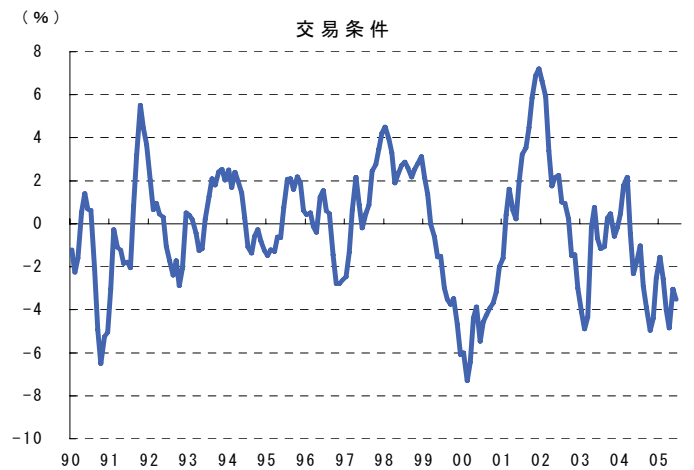
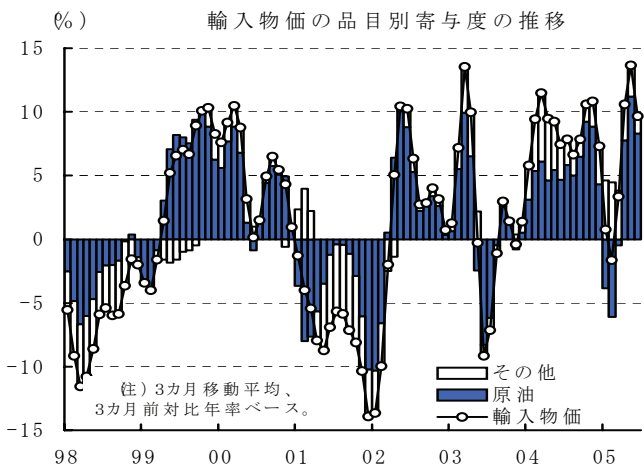
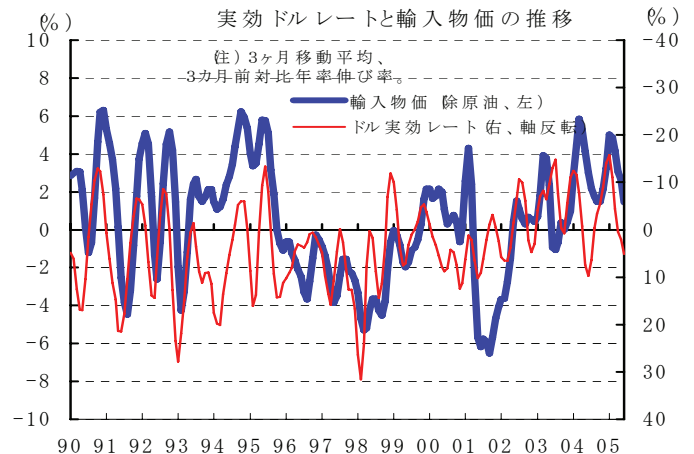
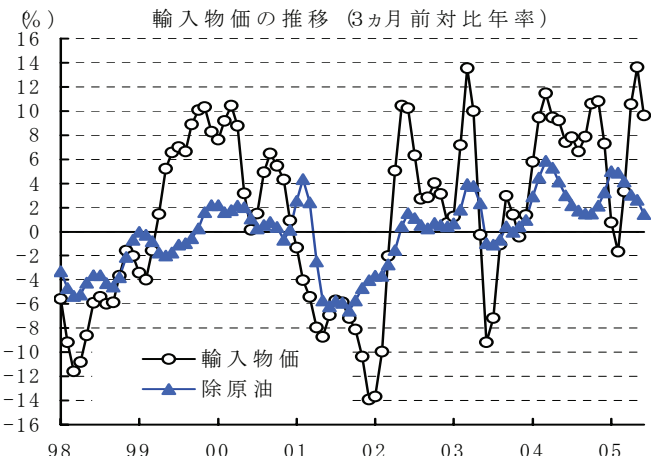
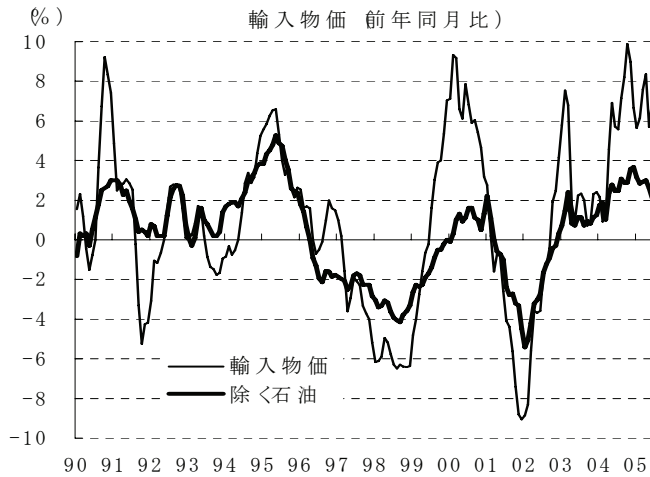
### ドル高によって対メキシコ以外の輸入物価安定

地域別の輸入物価をみると、ドル高によって対メキシコ以外の輸入物価が安定した。メキシコが前月比+0.5% (前年同月比+8.5%) となったものの、カナダが同0.0% (同+7.1%)、EUが同+0.2% (同+5.3%) に鈍化した。一方、アジアからの輸入物価をみると、通貨元がドルペッグされている中国は同▲0.1% (同▲0.9%) と下落し、日本が同+0.0% (同+0.7%)、N I E Sが同+0.1% (同▲0.3%)、A S E A Nが同+0.1% (同▲0.8%) とハイテク関連製品の輸入が多いアジアからの輸入物価も抑制されている。

交易条件（輸出物価／輸入物価）は、輸出物価が前年同月比+3.2%とプラス幅が小幅拡大したものの、輸入物価が同+7.0%と伸びが高まったことから、マイナス幅が拡大しており、マクロでみた米国の対外収益性は再び悪化した。

今後、輸入物価の上昇圧力緩和が見込まれる

今後の輸入物価を取巻く環境については、世界的な景気の拡大ペース加速に伴う原油の供給不足懸念や、過剰な流動性を背景にエネルギー価格の上昇が持続する可能性が高い。ただし、昨年のようなペースでの上昇が見込み難いことや、金利差拡大によってドル実効レートの上昇が見込まれることから、今後も輸入物価の上昇圧力は緩やかに緩和していく。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。